

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第3部課程第115期）

山口県下松市 生活環境部保険年金課 宮本 陽子

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

私の所属する山口県下松（くだまつ）市は、瀬戸内海に面した人口約56,600人のコンパクトなまちです。本市では、ほぼ毎年度、第2部課程に1名、近年では、第3部、第1・2部特別課程にも職員を派遣しており、一定数の者が自治大学校に入校し、多くのことを学ばせていただいています。

このたび、令和7年7月14日に入寮し、8月8日の卒業まで、3週間余りの研修に参加させていただきました。自分が派遣されるとは思っていませんでしたが、この研修に参加できたことは、何事にも代えがたい貴重な経験となりました。快く送り出してくれた上司や職場、家事を頑張ってくれた家族の理解に、心から感謝しています。

2 受講にあたって

今回の研修生は総勢85名（うち女性は16名）で、入寮、入校式を経て、長いようで短い凝縮された研修が始まりました。第115期で決めた最初のミッションは、「85名全員が全員と名刺交換する」でした。

3 第3部課程の講義、演習の概要

(1) 講義について

幹部職員を対象とする第3部課程の研修内容、講師陣については、地方自治体独自で行うには困難で高度な研修内容となっており、一流の講師陣が揃えられ、最新の知識・情報を吸収できるようになっています。講義は基本的にペーパーレスで、その分野としては、自治体の基本である行財政の課題、判例の動向をはじめ、管理職としての職場

マネジメントと危機管理、子ども政策、高齢者の政策、多文化共生社会、地域おこし協力隊、DX、環境政策、観光政策、社会保障政策、防災分野など大変幅広い内容となっています。自分の現在の所属や、過去に携わった業務との関連性を求めることができ、たとえ知識が薄い分野であっても、より一層関心を持って受講できると思います。

(2) 演習について

演習については、事例演習（持寄型）と特定政策課題演習の2つのレポート作成がありました。事例演習（持寄型）では、各自治体が抱えている課題を事前に作成提出し、グループで討議した上で意見をまとめ、報告書作成を行います。どの事例も、多くの自治体で共通する課題があげられており、事例を見るだけで、同じ悩みを抱え、それぞれ対応していることが分かりました。各自治体の現状や意見を交わすことにより、正解はないものの、自分達なりの答えを目指して討議を重ねました。

特定政策課題演習では、長期的な自治体の課題と現状について、データ等を用い、政策提言までをレポートにまとめます。班メンバーからの質疑を踏まえて、本番は教官を前にプレゼンに臨みました。豊富な資料が揃う図書室の活用や、講義を受けていく中で得た知識や考え方を取り入れつつ、限られた短い時間でポイントを押さえた伝え方、資料の示し方などに悩み、提出期限ぎりぎりまで作成していたことを思い出します。事例演習（持寄型）と同様、メンバーのプレゼン内容も防災・福祉分野、人材不足や公共交通、地域活性化など様々な内容となっていました。それぞれ同じようで、地域の実情で違う面もあり、やり方は一つではないということがよく分かる演習となりました。

4 研修を振り返って

講義においては、どの分野においても、人口減少と高齢化と労働力不足に触れられており、今後もその状況は長く続くことから、担い手不足を前提として、どのように住民へ説明し、自治体運営していくのかを考えなければならないと感じました。

また、デジタル分野では、まだまだ発展していく生成 AI 等が活用できること、金利がある世界が自治体経営に及ぼす影響など、最近の動きにテーマを置いた講義も用意されていました。社会の動きや他自治体の事例に敏感になり、自分事として捉える感覚や、「鳥の目」「虫の目」「魚の目」で俯瞰して物事を見ることが、社会の動きが速くなっている今こそ、より一層求められていくと思いました。

5 寮生活

女性 16 名のフロアで女子部を結成した私たち。幅はありますが、同年代を核とするメンバーと程よい距離感を保ちつつ、清潔な学生寮で清く楽しく美しく過ごしました。

ほかにも、県人会、政策グループ、ランニング等趣味の仲間といったフロアの枠を越えた幅広いネットワークが構築されていました。仲間との共同生活のほか、休日には講義で聞いた場所を実際に訪れ、防災館等の立川探検をし、大人の修学旅行と称し大人数で観光地を訪れたことも思い出です。また、フロア談話室のお楽しみは各自治体からのお土産です。ある時「うちが元祖！」と、ういろう自慢が始まり、ういろう食べ比べパーティーが開催される等、それぞれの自治体愛があふれ出て、尽きることがありませんでした。

6 おわりに

最後の講義が終わり、卒業式前日のパーティーにおける各フロア謝辞では、女子部全員で綿密(?)に打ち合わせ、発表を行いました。さすが管理職の集まりならではの気の合った出来栄え！とお互いに褒めあい、

これまでの事に笑い合いながらも、寂しさがこみ上げました。職場マネジメントの講義で心理的安全性を担保することの重要性を学びましたが、自分たちにとっても安心できる場所が構築されていたと皆実感していました。

職場で管理職が不在になることは難しいかもしれません。しかし、経験を積んだ管理職としての立場・年代でこそ、リフレッシュが図られ、幅広い視点を持つことにつながり、県・市町村と立場は違っても同様な課題を他自治体に学ぶことができる有意義な機会となることから、約 1 か月の時間は決して長くはなく、有効に活用できるものであると思います。

また、全国の仲間との絆と言われますが、研修後の今も、連絡は途絶えることなく続いており、確かに絆は存在しています。公私において大切な宝となることでしょう。

最後に、研修運営していただいた教務部をはじめ、自治大学校関係者の皆様と多くの講師の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



《ウォーキングも兼ねた学校周囲の自治会清掃活動》



《卒業式後に
全員で》